

第二成田記念病院 入院患者様へ

当院では下記に臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合に、下記問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題	「当院脳卒中患者における CBA と帰結との関係」 ＜後ろ向き研究＞
当院の研究責任者	リハビリ室 室長 後藤健一
情報を提供する他の研究機関	無
本研究の概要	当院では、脳卒中患者様に対して高次脳機能障害評価ツールの一つとして認知関連行動アセスメント ; Cognitive-related Behavioral Assessment (以下 ; CBA) を用いた評価測定を行っています。これまでに集積したこの CBA データより、脳卒中患者様の退院時の状態（帰結）と CBA の関係性を検討し、高次脳機能障害が退院時の運動機能や入院期間、在宅へ退院にするにあたりどの程度影響を及ぼすのかを調査いたしました。その結果、入院時の CBA が低くなるに従い、退院時の運動機能は良好で、入院期間は短く、在宅への退院する率は高くなる傾向にありました。 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者様の退院時の帰結予測は、退院後の状態を判断し、目標の設定を行う上で不可欠です。また患者様や家族様に具体的な情報を提供する場合には、適切な帰結予測が大変重要であると考えられます。そのため、個人の主観や経験論のみでなく、科学的根拠に基づいたより精度の高い帰結予測が望まれます。今後さらに詳細な予測が出来るよう、研究していきます。
調査データの該当期間	2021 年 4 月～2023 年 9 月
研究対象・研究方法	対象は 2021 年 4 月から 2023 年 9 月に当院に入院し退院を確認した脳卒中患者様です。入院時 CBA 合計点数を基に重症度別に、対象を最重度群、重度群、中等度群、軽度群、良好群の 5 群に分けて、退院時の運動機能（FIM という指標を使用）、入院期間、在宅へ退院した患者様の割合について、各群で統計的手法を使って検討しました。尚、個人情報情報は全てデータ化して、個人が特定できないように処理したうえで分析を行いました。

結果の公表	学会や論文で公表します
利益相反	本研究に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	第二成田記念病院 0532-51-5666 (平日 9～17 時) 担当者 後藤健一